

水源禅師法話集 83

(2018 年 4 月 27 日 山梨合宿 1 日目)

2019 年 2 月 14 日

一乗禅の会



目次

水源禅師法話

弦楽器の弦の如く、締めすぎず緩めすぎずにするのが瞑想の極意.....	3
瞑想の座り方、呼吸の仕方.....	5
お寺は総持寺、全ての人を助け、社会に貢献しなければいけない.....	6
実際に体験した行、文献でなければ、ボケて、本物は伝わらない.....	9
情報なきが故に判断せず、仏教はダンマの元で何が本当か？自ら確かめる.....	10
仏教の真理、科学の真理、2つで初めて仏教の究竟の世界が観える.....	11
過去仏、91劫前までのお話まで紐解く仏教.....	12
「実際達磨大師が生きて渡った道」を確認する旅の水源禅師.....	14
デーヴァダッタの五法（戒・シーラ）.....	15
お釈迦様の13の教え.....	16

質疑応答

ナーガ・竜族.....	18
体験して初めてアビダンマを応用し解説でき、人を救うことが出来る.....	19

水源禪師法話

弦楽器の弦の如く、締めすぎず緩めすぎずにするのが瞑想の極意

【水源師】

その昔、後で説明しますが、瞑想の仕方、その時お釈迦様がサンガを築いて大きくなった時に、従弟のデバダッタが「いやこんな贅沢なやり方をしては駄目だ」と言う事で、若い比丘達を連れて、比丘は木の下に座り、肉は食べずに、それから衣も新しいものではなく、拾った衣を使い、そういう風に説いて、結局教団を分裂させたわけですね。

何故そういう事が起こったかと言えば、昔からヒンズーのウパニシャドとかそういう流れでは、結局そういう風に苦行すれば、一切のカルマが消えると、そういう風な考えがあったわけですね。だから寝床も、墓の間で寝るとか、寝るのも横にならずに寝る事なく、ただ立つか、座るか、歩くか、それだけという風な事を良し、とした訳ですね。

ところが、ジャータカ物語で皆さんに言ったでしょう？ある時お釈迦様が雪の上に座り、それから昼は冷たい水が落ちる森の中で座り、食事もし小さい魚一匹とか。そういう苦行をして行った時に、地獄を見た。だから、あまり弦をひっぱらずにしてください。

ところがその昔、シャーリープトラさんとか、そういう偉い長老の人達が、「私達もそういう苦行をしたい」と言う事で、13の教えを教えたわけです。非常に苦しい仕方。「したいのだったらそういう風な事をしなさい」と。という風に苦行をすれば、素晴らしく上達すると。まあ、そういう方もいっぱい居られると思いますけれど、私もあまり修行が良いとは思わないのだけれど、何故か上手くこう遊びながら行ったわけですね(笑)。

だから体を壊さずに、自分の体を傷めずに、程々に、結局、楽器の弦。でも引っ張らずに程々の勢いで緩めずにという事を探し出すのが、瞑想の極意だと思います。それが上手く行った時に、長年やればね、そういう風に上手く入りますけれども、最初は上手く行かないのだけれど、そうやっていけばね、ご褒美が来ます。私も一人で静かに座って、「ああ、気分が良いなあ。何て素晴らしいのだろう」と思うのだけれど、突然ガヤガヤガヤって。まあ怒りに発するような嫌な事が来て、何と気分を壊されるのだろうと思う事もありますけれども。また座れば、スーッと消えて行くと。まあそういう事で、気楽に。

【司会者】

座り方で分からない事とかありますか？大丈夫ですか？

【水源師】

私は南伝のこういう風な座り方で、本当は、前は半跏か結跏でやっていましたけれど。やっぱり、パオでは大体もう朝から夜までずっと座るもので。結局、大乘の北伝のお坊さんはやっぱり切れてしまいますね。切れてしまう。やっても、やっぱり無理するからね、無理するからニミッタが消えて修行が上手く行かない。形は良いのだけれど。やっぱりパオでも皆分かるのです。道場で5時間、6時間ずっと座るから。だから修行がどこまで進んでいるか皆分かるわけです。それが1時間、2時間ではまだあれでね。やっぱり、先生もある時

期になれば 5、6 時間座させます。もう一人修行が進んだ人も、やっぱり悠然と 6 時間、7 時間ずうっと座っていて、やっぱり教科に入ればそうなるんですね。ある時期。それですぐ分かります。もう顔から何から光が出始めるから。その人を見たらそんな感じで。だから噂も出るし、誰が修行しているかすぐ分かります。

ところが日本ではそういう風な事が一切分からないもので、噂話の方が多いですね。やっぱり現場に行ってみる事です。去年私は皆さんに五台山に行って文殊菩薩ですね。この事が、一切の仏の秘密を持って一切の教えを持っている方。という事が法華經の中に書いてあるわけです。だから最後に訪ねたところが、この文殊菩薩の五台山で、普通は写真を撮らせないのだけれども、その和尚さんが「どうぞ」と撮らせてくれて。という風に天界は、私達の頭を超える存在で、じーっと見ておられます。私達を、修行される人を。全て生かすように。

それで何故私が観音様の事を言いたしたかと言えば、結局 M さんの事もありますけれども。突然同じく、観音經を唱えたのは、観音様の力によって「一地」に入るとするのは非常に難しいわけ。「第一地」というのは、そこに到達すればもう落ちる事なしと。観音様の力で、「八地」に行ってしまう。「八地」に。ボーンと。だから阿弥陀の国に行くと言うのは、皆さん」の域にも「八地」に到達するという凄い事なわけ。

では何故南伝では書かれてないかという事になるけれど、その昔經典が皆失われて、言葉とかナランダ大学が三か月も燃え続けたくらいの經典があつて。北伝の方の中国の方に渡って、日本に来て、また南伝の方からも来たわけなのですからね。菩提達磨大師様、それに真言の龍智・金剛智・不空。金剛の非常に素晴らしい先生方は全てスリランカを通して、インドネシアに着き、達磨大師様、不空大師様が中国に来ているわけですね。教えに。だから南伝の方からずうっと入って来ている事であって、私達はもう千年、二千年経ってもう文形も何も分からなくなってしまうていますからね。それで現代の先生方が「そうだ」と言われたらそうなるくらいであって。だから、まああんまり考えずに、ただ自然体で。やっぱり弘法大師様も、言っているけれどニミッタが非常に大切です。そのニミッタを出すには、やっぱり慈悲の心が無ければ、出て来ない。という風に、弘法大師様が言われて、私もそう思います。

だから、私も奇しくも、その經典をずうっと持ちながら読まなくて。やっぱり読んでみたら、全く納得する事で。だから心の座り方はもちろん呼吸アーナーパーナ・サティ(ānāpāna-sati 入出息念)、それから丹田呼吸。でも真髓は、心に慈悲の心を持って座る事。それなくしてただ座るだけでは、上手く行かないはず。だから人を見て涙を流すのも宜しいし、喜怒哀楽の心を見ながら自分を進化させて行くと。でなければ、私達は AI のコンピューターになってしまつて。人が死んでも何の感情も無く、この宇宙は慈悲の心で出来ていますから。慈悲の心を育てなくて、究極の真髓の法は得られません。その法を得られる事によって、全ての苦が抜けて行きます。空の本体に入っていきますから。そういう事で、心持は。それで座り方は、それぞれの因縁によって結跏、半跏、または椅子に腰かけてもいいし、臥禅でもいいし。一休さんの様に「一休み、一休み」でも結構です。まあそういう事でどうですか？

【水源師】

皆さんがこうして一緒に座ったと言う事は、もはやブッダネイチャー（仏性）の心が植え込まれていると言う事です。北伝も南伝も究竟は一緒だと弘法大師様が言っているから。ただただ突き進めば、同じ所に到達しますから。だからまあこうして皆さん一緒に座ると言う事は、皆さんがブッダ・ダトゥーと言います。南伝では、もうその種が植え込まれていますから。

— 座禅 —

瞑想の座り方、呼吸の仕方

【水源師】

私の先生曰く、左右膝を変えた方が良く。それによってバランスが取れて、年をとっても大丈夫。

【参加者】

この半跏府坐の・・・？で事ですか？

【水源師】

そうそう、変えた方がバランスが取れて。肉体的にやっぱり私もそれでやっています。

【参加者】

呼吸についてはどの様な事？

【水源師】

自分の体の波長がありますので、その波長を見つける事ですね。こう自然に吸う、吐くを自然体で。それがね、禅では吸う息を2とすれば、吐く息を4つ。倍。そういう風にして、こう考えるので雑念が入らずに、禅法ではちょっと目を開けて。大体三尺先をちょっと目を落として見ると。そしたら首がちょっと下がるから。こうではないのですね。ちょっと下がる事によって、長時間座れると言う事で。舌は上の歯茎にくっつけて。それで口を少し開けて、鼻から吸って、口からゆっくり出すと。そういう風にすれば 60 回やれば一時間になりますね。段々慣れて来れば、60 回呼吸すれば一時間になってしまう。ゆっくり段々なって来ます。

【参加者】

無理やり長くしなくても段々長く・・・。

【水源師】

無理やりではないです。段々自然に、自然になっていきます。南伝では、アーナーパーナ・サティで鼻から吸って、鼻から出すと。法随観(ダンマヌパッサナー)ではニミッタが必要なので、慣れたらタッチングポイントを探す。ヴェーダナーヌパッサナー(受随観)では、また方法が違います。チッタヌパッサナー(心随観)では、禅法。さっき言った。ヴェーダナーヌパッサナーは、フィーリングでまた別です。カーヤヌパッサナー(身随観)はお腹の膨らみを見る事によって、身髄に入っていきます。でもこれは難しいので、4つ教えたでしょう？前。アスバーヌッサティ(Asubhānussati:不浄随念)、マラナーヌッサティ(Maranānussati:死随念)、メッターヌッサティ(Mettānussati:愛の瞑想)、それからブッターヌッサティ(Buddhānussati:仏随念)を教えていますので、MさんでもHさんにでも訊いて、分からなかったら私にまた聞いてください。

— 座禅 —

【水源師】

座りにくいので、無理しないで冷やさない様にして下さい。パオでもあれだけ暑くてもね、40℃くらいになって大変なのだけれども、冬になったら28℃になって冷えますから。28℃でもうガタガタになるので、私達はこう菩提達摩様みたいにこうして座ります。28℃だったら、ちょっと暑いでしょう？でももう私達の体は30℃、40℃に慣れているものだから、冬になったらとても寒くてこうしてしまう。南国では座りやすいのですけれども、北国ではやっぱりこう座りにくいので、冷やさない様にして下さい。温かくして。

私も南米で座っていたけれど、やはり気持ち良いですね。常に25、26℃で。緑の中で座るので、湿気も無く。やっぱり自然の力と言うのは大きいですね。今回特に川の側の瞑想を教えて来たので、毎週やっているらしいです。やっぱり色んなニミッタもすぐ出て来るのですね。自然の力で。ボンボン観えて。スペインの人は全然言葉も分からないのに、ちょっと言葉を教えたらいきなり出て来てビックリしていました。だからお釈迦様の教えと言うのは凄いのですね。

お寺は総持寺、全ての人を助け、社会に貢献しなければいけない(印光大師の如く)

【水源師】

法話の前にお話したい事があるのは、やはり電磁波が強烈なので、ちょっと説明しますね。これは偶然アメリカの方で間違って出された情報で「U.S.government counterterrorism center, accidentally released」。要はアメリカ政府がテロに対するリモートコントロールですね、心。心のリモートコントロールのこの書類が、偶然発表、誰かがとったのか、間違って出したのか、The Washington State Fusion Center(ワシントン州の核融合センター)という所ですね。総合センターというか。これは心をコントロールする仕組みで、1947年にもうこれは秘密書類で作られているわけですね。と言う事は今からもう相当前ですね。何十年もその時から心をコントロールすると言うのを、テレビを通してやると言う事は知っていましたけれども。

実際この頃はもっと激しくなって、ハンドフォン(携帯電話)とか、コンピューターとか、スマートフォンとか言うのは強烈、その他にも強烈に今世界中の街々に電磁波を出すのですね。

コントロール業。ニューヨークでもどこの街でも出しています。こうして心の修行をしている人が、感じて頭が痛くなったり、まあ悪い事はしないけれども。普通知らない人は何をやらすか分からない。だから若い子がよく拳銃でバンバンと撃ったりね。結局世の中をコントロールする為の手法で、はっきり言って悪魔の手法(悪魔の投げ餌、25の苦の一つ)でやっているわけですね。

では何故それが出て来るかと言ったら、こういう事を言っています。遠い、遠い昔に、あるインドの王様がね、12年間一生懸命願ったけれど子供が出来なかったと。それでその事によって、自分の身を切り裂いて悪魔になったという話があるのですね。その後、実際に自分が実体として魔行の祭り事をしたと、それからこういう風に遠くから人の心をコントロールする様な事を言われているわけです。遠い、遠い昔。だから身一つですけれども、もう沢山の分身を作ってやると、こう書かれているわけ。実際にだから目の当たりに、ここのお経に、書かれてある事がこういう風に発生しているわけです。だから繰り返しやっているわけです。

だから、弘法大師様が言われるのは、真言と言うのはすべての言葉の中にあると。真言密教の行も、全ての生活の中にありますと。深く観れば。また、素晴らしい事を言われてね。これは1200年前の言葉ですけれども、全ての素晴らしい事は真言そのものであると。心を打つ言葉と言うのは、私がその前に「神の言葉は遠い、遠い昔に人間の言葉に宿っている」と。神と言うのは、つまり大仏ですね。仏の事。人間の神と言う西洋の神と、私の言う神は全く違います。遠大な仏としか表現できないくらいです。結局この地球の成り立ちとか、過去の考古学とか現代地質学、宇宙科学を見た場合には、益々分からなくなっている。

まあそういう事で、やっぱりね、どんな事でも、善意を尽くすと言う事は、これが本当の「密隠」であると。密教の密。隠された非常に深い意味がありますと。そしてこういう事を広く皆さんに伝えると言う事は、「孝を尽くしても極めつけ難し」と言う、時空を超えてしまう、と言う事を言われている。その内容は何かと言ったら、結局私達人間は浅はかだね。ちょうど夏のセミ。朝に生まれて夕方に死ぬそのものと言うか、あるでしょう？蜻蛉みたいなものであると。そういう頭であれこれあれこれ言っていると(恐ろしい事に仏はこうであると修行なしに分る)。

それで、結局昔の人は総持と言うのは、お寺の事なのですね。お寺を総持と言うのだけれども、総持の本当の意味は全てを持って知る人と言う事です。全ての法を持って知る方で全てのものを助けるという事の意味で。だからお寺は全ての人を助けなければいけないわけなのですね。ただ建物であって、そこで拝むのではなく、実際に社会に対して貢献しなければいけないわけ。その意味での総持と1200年前は言ったわけですね。今はお寺と言う事で。だから結局そういう素晴らしい智慧とか、叡智でもって人を助けるという事であるから、これほど素晴らしいものは無いわけなのだけれど、それは現代において今においても昔においてもやっているかどうかまた別の話で、意味はそういう事だと言う事です。

だからお寺と言う事は、総持と言われる事は全ての事を知って経済から科学から政治から、そういう事を知って人を助けると。それが今のシンガポールの印光大師が出られたお寺なのですね。あの方は禅法によって全ての政治家、街を作って今世界一の街にしましたけれども、2300の舍利を出しました。それこそ総持と言うお寺なのですね。名前は忘れましたが、シンガポールで一番大きいお寺。「Loving kindness」と言う本を出して。その印光と言うのは、

やっぱりニミッタを持つ方と。ここにも言っている月輪を持つと言う事は、もう仏に近づかれた方と。結局、月輪と言うのは白いお月様の様な光。一円法という。まあそこから入って行くのですけれど、法随観には。そういう事で、ここに明快に書かれています。ですからこういう風な事も、説明せざるを得ないわけです。「全て法にあらずものは無し」という事は、昔から言われている事です。

だからこれは法であってこれが法でないと言う事は、結局「蜻蛉の如く、夏の蟬の様な生き方をしている方々だ」と言う事を弘法大師様が言っていますしね。だから観音の大悲は、「初より八地を超ゆ」と言うのは、「第一地」に入るのは物凄く難しい事です。悟りの中で。そこに入ってしまうと、もう落ちないのですよ。地獄とかそういう悪世の世界に入らない。最高は、「十地」になれば仏の位に入って行きますけれども。その「第一地」より「八地」に入って行くという観音様の凄いお力があるわけですね。

南伝でも北伝でも、観音様の事を非常に崇めて。驚くことなかれ、カンボジア、タイ、ミャンマー、全部観音様が居られるわけですね。姿が。もちろんチベットもそうですし。大乘だけではないですね。「ロカナトウ？」と言うのは、タイランドで観音様の事です。タイ。タミールでもスリランカでも居られますね。「ナーサ」と言う名前で、アヴァローキテーシュヴァラ (Avalokitesvara)、「ナーサ」と言う事で観音様の事。スリランカ、AD750 の時はこういうお姿。



補陀落島の観音様、上海の沖、 中国

この方が観音様。

スリランカではデバでね。もちろんアジャンタ・エローラケーブ(石窟群)ではこういう風に表される。このアジャンタ・エローラは、千年掛けて作られた洞窟で、紀元前 100 年から世紀 900 年。でこれはまた凄い、私も行ってみましたけれども、巨大な石をくり貫いてね、一寸の狂いも無いわけです。現代ではレーザー光線が無ければ作れないと言う摩訶不思議な掘方をしているわけですね。特にカイラス寺院と言うのがあります。石山を植えたから全部くり貫いて一寸の狂いなくカイラスの大寺院を作っているわけです。それがもう、その時はヒンズーと仏教が組み合わさった感じでした。ドイツの人が非常に不思議がって、シバがミサイルを持っているわけですよ。と言う事で、ドイツの人が見に来て、非常に熱心に仏教を研究して。だからそういう関係で英文に訳されたこういう話が見られるわけですね。日本の文献とか、中国の文献を集めて研鑽して居るようです。

実際に体験した行、文献でなければ、ボケて、本物は伝わらない

【水源師】

それでこのお経で言われる事は、「過去生をちゃんと見て下さい」と。「それによって法を得る事が出来る」と。それで過去生と言うのは、やっぱり十二因縁ですね。十二因縁。日本語訳のこれはね、間違っって訳されている。分かっていないから。だから体験した人だったら、何が何だかすぐに分かりますけれども、そうでなければ…これはフランシスコ・ヴァレラと言う「身体化された心」という事をこの人はやはり十二因縁を書かれていますけれども、これは間違い。これですね、間違っって書かれています。ところが日本の人がこれを見て、このまま訳して間違っって書いたものが他の文献だけれども、ここに当たるわけです。皆さん誤解してしまう。

こっちの方がまだ…、プラティーティヤ・サムトパーダ(pratītya-samutpāda)という「縁起」ですね。Dependent origination と英語では訳しますけれども。無明がある故に、サンカーラ(saṅkhāra:行、形成作用)がありますと。行、サンカーラ。サンカーラがある故にヴィンニャーナ(viññāṇa:識)がありますと。識ですね。受想行識の。ヴィンニャーナがある故にナーマ・ルーパ(名色,心と体)、名色が出て来ますと。その名色によって六処ですね。眼・耳・鼻・身・意。それによって、スパラ(梵: sparśa)、パッサ(巴: phassa:触)ですよね、これはパッサ。それでヴェーダナー(vedanā:受)が発生して、タンハー(taṇhā:愛)。これも日本語でスペルが間違っっていますけれども。その後で、タンハー・愛、取によってウパーダーナ(upādāna:取)、くっ付くことによって今度それがヴァバ(bhava:有;消滅なし)、結局生命が発生する事になって、生(ジャーティ:jāti)が生まれると。生が生まれるが故にずーっと生きて来て一生を過ごして死ぬ、老死、ジャラーマラナ(jarā-maraṇa:老死)と。

これちょっとパーリ語ではないし、北伝の方で書かれた事かも分からない。この訳を見たら。南伝ではちょっと違います。でも言っている事は同じ。それで最後の十一、十二が結局生まれて死ぬ間の事で、その死ぬ時にこれをずうっとやるわけです。その瞬間にタタタタタッとサンカーラが発生します。だから法随観ではこれを観ます。詳しく。それで過去生を何回も観て行くわけです。それでそういう事によって、確固たる事(因縁を観る)が伝えられるわけですね。皆さんにこれはこうであれはこうだと。ミャンマーではどうでした？

【参加者】

インタビュー的なやつで詳しくは聞いた事はないです。

【水源師】

だから結局殆ど日本には伝わっていないと言う事。ただ修行した何だかんだと言うけれど、行者がいっぱい出て、全然やっていない。だから何故そう言う事をするかと、人を騙す様な事をするかと、やめなさいと言ってもやめませんね。真面ではないですね。おかしいと思いませんか？本当に。結局何故やらないかと言ったら、体験が無いから。言えないわけです。でもヴィスuddhi・マッガ(Visuddhimagga)という清浄道論にはちゃんと書かれてある。これが日本の現状で結局日本にはまた文献も無いし、あっても非常に難しくて読めない。私もナーガールジュナ(龍樹菩薩)様の経本を読んでみたけれど、それは難しくて、難しくて読めないけれど、英文ではスラスラと読めます。結局私は中国語も分からないし、文献は皆昔の中国語で書かれて昔の言葉でしょう？

だから弘法大師様が言われる「全て陀羅尼、真言でない事は無し」と。本当にその通りです。生きている生き様の中に本当の真理(Tatha: 仏は Tatha Gata)がありますと。だから私が言うのは、「正直に、嘘つかずに人の為に尽くしなさい」と。非常に簡単に私の先生から受け取って、そう言う方針で 10 年間伝えて来たのですけれども、やっぱり同じ事を言っています。1200 年の時空を通して。ここな、わけです。ところが一体何が正しくて何が人の為に尽くすかと。

情報なきが故に判断せず、仏教はダンマの元で何が本当か？自ら確かめる

【水源師】

結局この前シリアでホワイト・ヘルメットの NGO が、毒殺されて人が殺されていると。それでアメリカとイギリスとフランスが爆撃したでしょう？ボンボンと。ところが世界のケミカル、毒物を検査する調査団が行ったら一つも発見されていないわけです。無いのです。だから爆撃された死んだ方は民間人が殆どで、去年 11 月殆ど死んだでしょう？あの時も無かった、今回も無かった。ところが、アメリカの大統領とかイギリスのテレーサ・メイ英国首相さんとか、マルコス大統領がバーンと爆撃して沢山死んだでしょう？無いのですよ。良い事しようとしたけれど、人をドンドン殺してしまう。ここな、わけです。一般の日本の方は知らないけれど、こういう情報は入って来ないけれども、世界ではドンドン出て来ます。

と言う事は、皆さん良い事をしようと思っても、情報が入ってこないが故に喧嘩してみたり、間違った方向で行ってしまうわけですね。何時の世でも。だから何時でも何かあったら中立に立って、しっかり見分していかなければいけないけれど、その立場と言うのは自分の両足の体験しか無いわけです。間違っているかも分からない。その見方が。でもそれ以外は、もう決定出来ないわけです。特に仏教では常にお釈迦様が言った様に「まず私の言った事を確かめて下さい」と。「丸暗記して言う事はやめて下さい」と。私も前はこういうものを一切読まな

かったのです。もう何十年もただ座って、座って、座って。それで最初の 4,5 年は読みましたよ。後はただ座って、座るだけ。その後、運良く法を得る事が出来てそういう教科をスーッと行ったもので、それで皆さんの為にこうして集めて、こういう文献を集めて。結局、太古の昔のヴェーダ、ヒンドゥーの究極が何を教えているか、それからジャイナ教、その対比が私の体験より分かるわけです。これは合っている、あ、これは間違っただけを教えているとか。でなければ、全て頭に入れても解析出来ないから、何が正しいか分からない。ただ例症を並べるだけです。お医者さんがそう言っていた。「私達は人を治す事が出来ない」と。ただ分類して、例証、症例を並べて、例えその例証に合った場合に薬を与えた場合に治るか、治らないかも分からないと。ところが、一般の場合は「病院に行けば全て治る」と。「分かっている」って、もうお医者さん自体「分からない」って言っているのだから。明快に何が何だか。ただ分類して当てはめて行くだけだと。

まあ結局そういう素晴らしい頭脳を持たれた方でもそうなのだから、しっかりした情報が無きが故に特に仏教ではこういう風にして何故私がこういう風なレオナルドダビンチのこの絵を持って来て、こういう図形を皆さんに与えているかと。でもこういう弘法大師様が言われる様に、「素晴らしい図形とか言葉は、陀羅尼そのものだ」と、「真言そのものだ」と言われている。「ここに書かれている事だけが、真言ではない」と。それはね、禅のお坊さんも「法は全てのところにある」と、同じ事を言っています。

仏教の真理、科学の真理、2つで初めて仏教の究竟の世界が観える

【水源師】

まあそういう事で、また詳しく言えば凄く長いけれど…、さわりだけ。これはミャンマーのアストロジーと言うか。ミャンマーに行ったら必ず「君は何曜日生まれ？」って聞かれます。非常に大切な事で。それで曜日が分かったら、月曜日だったら月曜日の仏陀にお祈りを捧げに行きます。その意味はどこから来ているかと言ったら、月火水木金土日(ユダヤ教と正統キリスト教:Orthodox、では宇宙は七つの天体でできている、と教えていました。)でしょう。そうしたら何が何だか分からない様になりますから、結局月は一日に 33 度、空中で動いて行きます。毎日 33 度。次に水星は一日に 2.5 度、空中を動きます。だからマーキュリーと言って、速いでしょう。それで金星もそれに近い、ほぼ近いけれど、その後になります。太陽は一日に一度だけ動いて行きます。だから 360 日でしょう。365 日ですけれども、その昔は 366 を使ったようで。ところが、360 度(スメリア文明は6と10の単位を使う、6x6x10)が一周にしているから、ちょっと意味が分からなくなっている。

太古の昔の巨石文明の時には、366 メガリスティックヤードと言って、それは 83 cmが1メガリスティックヤードになっています。それで 366 というのは非常に重要な数字で。と言うのは、一年間に地球がクルリと回る一周期が 366 度になって、24 時間の時間も私達はこうして一秒何ぼと区切って 4 年に一回間違うでしょう？ところが、太古の 24 時間と私達の 24 時間はちょっと違うわけです。一日が。それで 366 日と言ったら、366 回太陽が上がって来るものだから、間違いが無いわけなのです。それでずうっと何時までも続くわけです。だって現代の時間は

360 度の時間帯を使うから、366 日の時間帯とはちょっと違うわけです。それで私達がややこしいように、原子時計とかね、そういう物を使っているわけですね。では何故マヤ文明は、600 年に一秒しか狂わないのかと。366 度のそれでやっているからです。それを突然変えたわけですね。6 千年前辺りの遠い、遠い昔にもう分からない様になってしまう。それで、現代の尺度は巨石文明の尺度が忘れ去られて、六千年前のスメリアカルチャーの尺度を使っているから、謎々になっているわけです。

お釈迦様の時代はね、お釈迦様が自分の心の振動を雷が鳴るそのバイブレーションと自分の振動が分かるから、1 テラバイトとすぐに分かるわけです(アビダンマの経典より)。震えが。それくらい凄い頭脳を持っていたのです。ピカッと光るのは、0.3 秒辺りだったかね？ピカッとその瞬間の心の振動、それが分かるわけです。だからそういう風に弘法大師様がこう言っています。「本当の仏教の真理とそういう風な科学的な真理も分かりなさい」と。「それ 2 つがあってこそ、初めて仏教の究竟の世界が観えます」と。だから、究竟の世界ですから南伝も北伝も同じと。真理は真理であると。まあそういう事を言われていますね。

過去仏、91 劫前までのお話まで紐解く仏教

【水源師】

それで私が非常に興味を持ったのが、月と太陽と地球の関係でね、日月燈明如来という二万仏。ヘエーッと。二万仏。それが法華經に書いてあるわけですね。それで南伝の方ではですね、28 仏それ以上書いていないわけです。それで北伝の方は、二万仏とか言うのだけれど、正確に分かるのは過去七仏なのですよ。その過去七仏と南伝の過去七仏はピッタリ合います。

結局、ヴィパッシ(Vipassī:毘婆尸仏)。毘婆尸と漢字でも書いています。この人は、よく observation 観禪が非常に優れていると。この仏は。名前を拘利若(こうりにやく)と言う発音をしますね。過去91劫の昔に生まれ、寿命が八万四千の時に槃頭婆提(ヴァンズディーガー)城に生れ、武士の出身なのですね。その時の名前は、拘利若(コーリジャー)。父は槃頭婆多(ヴァンズディーター)。これは北伝のたぶんサンスクリット語で書かれた言葉を漢字に訳したわけですね。運よく日本語に訳されて、私が発表出来るけれど。波波羅樹の下で成道したと。

仏によって、今の菩提樹で成道するわけではないのですよね。今度成道される弥勒菩薩様は、竜の木(龍華樹)の下で成道されるわけですね。竜の木というのは、こんな真っ赤な果物があるでしょう。南伝に行けば。日本ではちょっと見られないかもしれないけれど、葉っぱがね、こう尾びれみたいになっているのですよ。そこから採れる果物を、竜の果物と言って、その木を竜樹と言うわけです。

【参加者】

ドラゴンフルーツっていうのですか？

【水源師】

そうです。だから今度生まれる時、その木の下で成道すると。こう言う風に、では南伝ではどう言われているかと言ったら、もちろん同じですけども、もっと簡単になっています。28 仏の下の方に書かれているのですね。パーリ語で。ヴィパッシ(Vipassī)、クシャトリア、武士階級。そして生まれたところは、ヴァンドウマティーナガラ(Bandhumatīnagara: 槃頭婆提城)。お父さんは、ヴァンズディーター(槃頭婆多)。その方はアトラ? の王様であると、そこまで言われています。これが91劫前のお話でちゃんと分かる。

次は、シキー(Sikhi: 尸棄)。この方も武士階級で、生まれた場所はアルナバティーナガラ(Arunavatīnagara: 光相城)。よくネパールで生まれているのですね。ネパールかバラナシー。その二つの大地でよく過去仏は生まれています。だけど今度生まれる弥勒菩薩様は、中国の方、曰く西湖で生まれる事になっていると語られています。物凄く綺麗な湖。もうこの世の天国みたいな所で、いっぱい塔も建って、その中に石で刻んでね。それは、それは凄い所ですよ。それで「ここで生まれます」と言っている。弥勒菩薩さまは。お腹のでっかいあの方でいつも笑っている御坊様です。日本では知られていないのですけど、中国の方はそう言っています。そこはね、南国みたいに温かい所だから、竜の果物が生えるし、私は北京で美味しそうな果物だなと思ってそれを買って食べたけれど、美味しくなかったけれど。ところが南米で食べたらとても美味しかった。やっぱり熟れているのですね。

まあそういう事で、そう言う風に中国文の日本語訳は物凄く詳しく言っているけど、パーリ語では簡単にこういうけど。ところが、ブッダのブッダズ。一人ではなく、沢山。そう言う本があるのですよ。もっと詳しく内容を書いています。そこで私が色々集めたけれども、その本を手に入れようと思ったけれど、それはミャンマーで発行されていて。だから南伝でも物凄く詳しいものがあるし、中国の方にも渡っているはずです。

だから弘法大師様が曰く、この地には三巻しか法が伝わらず、三百巻のうち三巻しか伝わっていない。だから 297 巻はまだ伝わっていないわけです。もしそれを受け取っても、それを理解して噛み砕いてくれる行者がいなければ、何これって。と言う風に、こういう風に解説が出来ないわけですね。ところが私も年だからね、それをやる気も無いし。これでゴメン、法をお伝えして新しい人が何とか受け取ってやってくれば良いくらいなもので。ただその法だけは伝えるから、法を受け取ってくれたらそれが最も大切な事であって。ただ文献として、間違わない様にある程度は説明し様かなと思っています。

それで北伝の方では、35 仏があるわけです。これもちちゃんと書かれている。ここにチベットン語で。これが、英語。35 仏はチベットン語で書かれて、サンスクリット語からチベットン語に訳したものだと思います。というのは、今度私が訪ねるアフガニスタンのカブール、それは最も古いお寺があってね。バーミヤン(アフガニスタン)よりも古いわけです。と言うのは、今行くそこのお寺は銅の鉾山があって、ヨーロッパでは銅は非常に貴重なものでね。スズも。それによって青銅器が出来たわけで、刀とか。だからわざわざラクダに乗ってヨーロッパまで持って行ったわけですよ。今のシリアからローマまで。でまた、そこから直線でイスラマバード、パキスタンね、あれ全部インドのエリア、インダス文明、インド。名前は変わっているけれど。またそこから直接シリアに行けるわけです。パミール高原を通して中国への通路。

「實際達磨大師が生きて渡った道」を確認する旅の水源禪師

【水源師】

それで私がその昔、達磨大師様をとっても尊敬してね、インドのチェンナイに行って、その海でちょっと体を清めて非常に光栄だったのですね。そのチェンナイの小さい国の第三皇子で、それでもう強烈な法を持った方で、お釈迦様より 28 代目を継いだ方でね。お釈迦様の直系です。そして、スリランカに行ったのか、ただはつきり分かったのは、ジャカルタを通過してそこから最後に中国に入る前にサイゴンに行ったわけですね。サイゴンのそのお寺を訪ねて。少林寺も訪ねて。それでタミール高原までは追跡出来たけれど、後は分からないと。ところが、そのカブールのこのお寺を通過してインドに渡ったと。ここを通過しているわけです。だから生きて中国より渡ったり、帰ったのです。中国に渡った時は、120 歳なはず。150 歳で中国からパミール高原を渡って、通って帰った所が今度私の行くカブールのお寺なわけなのです。もちろんバーミヤンも行ったかも分からないけれど。

と言う風にこの目で実際に行った所を見て、「臨光伝」に書かれている場所を訪ねてみたのです。だからアレキサンダー大王はね、仏を見て自分はちっちゃい子供みたいに崇めているわけです。それくらい仏は偉大なわけです。ところが、私達はそういう現状も殆ど知らされていない。何故かと言ったら大谷大学の博士号課程で研究されている方が 7 年ラサ、チベットに居ったのだけれども、この方が研究しているその建物を 7 年居っても行けなかったわけです。私はすぐ行って見て報告したらビックリしていました。私も行きたいのですけれどと言っていたけど。これが現状なわけです。ところが私は行者だからそんな事関係なく行って、現地主義ですからね。現地に行って調べて。

それで今回もアフガニスタンのアメリカ駐在大使の方の関係によってその事が判明して、調べてみたら、凄い事がカブールにあるのだと言う事が分かったのです。これはね、私のやる事ではないわけです。日本には何千億というお金をつぎ込んでいるこの仏教の方がやらなければいけない、と思いませんか？それで海外に仏教をもう一生懸命に広めよう広めようと言っているけれど、本源の現地での研究があまりしていないようです。だからなかなかお布施をしようと思っても、そういうお布施をするところが見つからないわけですよ。だから無駄にお金を投じているかも知れない。それだったら、そのお金を使って自分で体験する方がまだ良いし、そしてそれを人に報告する方がまだ本当の布施になると思っています。

それで大事な自習って、この瞑想について。瞑想もね、いっぱい。(資料が)ごちゃごちゃなっているけれども。私も読んで頭に入れているけれど、何処にあるか……。その昔ね、今でもそうですけれども、プラーナってあるでしょう、プラーナ。皆、プラーナ、プラーナと言う、ヨガの人もプラーナ(Prana)、プラーナって言う元気を貰う事を言っているけれども。プラーナ(Purana)と言うのは、マハープラーナというシバの物語とか、そういう事をプラーナと言っているのですね(日本では同じ文字で現すので混乱する)。インドでは。瞑想の事はパーナと言っていますけれど、昔、苦行とか。苦行難行をするわけなのです。裸になったり何も付けずにサドゥーみたい。そういう修行者の事をパーナと言っていますね。

デーヴァダッタの五法（戒・シーラ）

【水源師】

そういう影響によって、さっきお話した様に、デーヴァダッタの五法（戒）と言うか、お釈迦様まで殺そうとした五法の事をどこに書いてあったかな、？（資料が）いっぱいあるものだから、頭の中にはあるのだけれども……。デーヴァダッタの「five tapas」と言うのだね。パーナではなくタパスと言う言い方をしています。修行の仕方。それでその時にデーヴァダッタが、こういう事をしなさいと。比丘はね、木の下に住みなさいと。森の中の木の下で住むべきだと。そして絶対に人から招待されても、そういう食事をしてはいけませんと。全て乞食によって生活しなさいと。そして、着るものはタダ一つだけ。一つのこれ（衣）ですね。ローブだけで暮らしなさいと。それも人が投げた（捨てた）布切れを使いなさいと。絶対に人からのお布施のローブを受けてはいけませんと。また、絶対に屋根の付いた家でお坊さんは住んではいけませんと。絶対的に魚とか肉は食べてはいけませんと。純菜食主義です。

そしたら、「いやあ若いお坊さん達、これは素晴らしい」と言うのは、結局古代ヴェーダ、婆羅門がやったタパスという修行の仕方ですね。それでお釈迦様は戒律がゆるいと。そういう事をあまり言わないし。それでこっちの方が良いと言う事で 500 人の比丘を、本当は殆ど全部行ったのだけれど。その時シャーリプトラ（舍利氏）様がね、「いやいやそれは間違っている」と引き連れて、つれて帰って来たわけです。今でも修行も何もしていないけれど、そういう風な演技をして、さも分かった様な事を言ったって、誰も分からないでしょう？特に非常に危険な事は、オウム真理教でこれをやったけれど、何をやっているか分からないでしょう？ところが、彼らは結局ヒンズーと仏教を合わせた過去のこういう事をやっているわけです[特に Tathagata:如来 と Tatha:真如 の混同]。だから修行者だけが分かる事であって、一般は「あれはもう飛んでいる」とバカにするくらいで。あとで、結局大きな犯罪を起こして分かったくらいであって。私がその時に言ったって、もう皆から石投げられるくらい、なものでしょうね。あれは嘘つきだ何だかと言うのでしょうかね。

今でもその宗派がいるわけですね。その時、玄奘三蔵、三蔵法師様がずうっと北伝の方に行った時に、やはり 500 人くらいの集団があって、お釈迦様は仏ではないのですね。それは外して過去三仏を拝んで。それでそのまま続けているわけですよ。何かそういう宗派がありますけれど、日本にも。お釈迦様を仏と認めない様な。これは完全にデーヴァダッタの手法ですね。さも言っている内容は、さっきも言った様に、肉は絶対食べない様にとか。贅沢しては駄目とか。まあ言っている事は正しいのだけれども、やっている事は滅茶苦茶、嘘をついているわけです。陰で何をやっているか分からない。結局修行をしないで、表では演技で人は分からないから。私も若い頃、衣を着けた方は絶対嘘をつかないし、素晴らしいのだろうなと思って。中から見たら、いやーあ、おかしいなと言う事がいっぱいありましたね。つまり私が日本語を話せて、修行出来たもので外国に居るから、やっぱりこういう役回りなのでしょうね。憎まれ役と言うか（笑）。まあ石を投げられる存在なのでしょうね（笑）。石川啄木も追われるみたいに、私もちょうど津軽だし、そんな感じ（笑）。皆さんは賢治みたいな感じで。

お釈迦様の 13 の教え

【水源師】

お釈迦様が、よし！君達がそんなにそういう事をしたかったら、厳しい手法を教えたのです。それはですね、13の法があるわけですよ。やっぱり一つ。このローブはね、捨てた物から拾って使いなさいと。出来たものは絶対に受け取らない様にと。信者からダーナされても、それは駄目と。ローブは私みたいに、これ下があるでしょう。それで二つでしょう。それにもう一つあるですよ、毛布みたいに。それを着て寒い時は、布団にして寝たりします。そして三つ持つ事が出来るわけです。ところがデーヴァダッタはたった一つだけ。この一つだけで全部ローブになるわけです。見た目にはカッコいいわけですよ、一つだけで全部出来ると。

パオセヤドーも森に住んで、洗濯をしないのですね。特別な木の樹脂を使ってやったらね、いつも匂いはしないし、洗った様に素晴らしい衣になって。そういう手法なのです。だから私も虫に食われない様にね、あっちは凄いですよ、虫。刺されたらもうダニと言うか、もう痛くて大変だからね。私は寝る時に、犬に DDT 撒くでしょう。人間には毒だから撒かないでしょう。私はベッドにそれを撒いてね、寝たのですよ。でなければ、痒くて大変な事になるからね。それでも虫が付くから太陽に浴びせるわけです。熱い、そしたら虫が逃げて綺麗になっているから。それでまあ最初の一週間は寝られないのですよ。何故かと言ったら板でしょう。いつも柔らかいベッドでしょう。寝ていたらもう一晩中起きるくらい痛い、体が。でも、一か月もしたらね「ああ、これ気持ち良いな」って(笑)。もうそういう風になってしまう身体。面白いものだ。

だから、この中であるけれど、寝る所は墓場とかそういう所で寝なさいと。そういう所は人が死んで臭いでしょう。そういう所で寝なさいと。それもね、お釈迦様はそれは止めなさいと言ったわけ。でもどうしてもしたいと言うわけ。それが懂れるわけ、スタイルで。スタイルで、ああカッコいいと。人間と言うのはそういうもので、何が何だか分からない格好だけでいるわけ一つの時代でも。いつの世でもスターが出てね。踊ったり、とか歌とか「ああカッコいい、カッコいい」と。その時は修行者がそれはカッコいいと言う事で。結局原理は変わらないわけです。本当の事を見てしなさいと。「ではよし、そんなにやりたかったらしなさい」と。

私もちっちゃい時に、隣の家的美味しいご飯があって食べたい、食べたいと。あんなのダメダメ、食べちゃダメって。どうしても食べたいって。それで「よし」って作ってくれたわけです。それが麦飯だったわけ。美味しくないでしょう。私は本当の米を食べているから。

だから、よし！っと。まあお釈迦様はその手段をとったようです。そんなにやりたかったらやりなさいと。その代わり13教の戒律を、もっときつい事をやらせるからと。そして食事は結局ピндаパータ(Pindapada: 托鉢)ね。人から貰いに行ったものだけ食べて、絶対にビハーラ(vihāra: 僧院)とか、他で家からの食事は受けない事。まあ似ていますけれど。そして、絶対に一つの家だけに行かないで、金持ちとか、全て回りなさいと。貧乏だろうが何だろうが。マハーカーシャパ様(梵: Mahākāśyapa: 大迦葉)がね、もちろんそれを守って、貧乏な家に行ったわけですよ。お婆ちゃんの所には食器も何もない、それで恵んでくれと。何もないのに恵む事が出来ないと。あるのは壊れた崩れた瓦みたいなものだから。ではそれに水をのせて私にお布施してくれと。マハーカーシャパ様がそれを飲んだおかげで、このお婆ちゃんが天

界に生まれたわけです。普通の人とはいう風な事には、滅多に遭わないわけです。マハーカーシャパ様が、こう歩いている時に、苦勞して畑を耕す夫婦がいたわけですよ、田んぼ。食事を私に恵んでくれと。いやあ、恵まれないって、これは私達の食べるものだ。でも何とかお願いだからお布施してください。それでそれを貰って、貰った後、この百姓さんは掘れば全部、金になったわけ。法を持った偉大な人はそれだけ高德を与えるわけです。それでお釈迦様に怒られて、何でお前は貧乏人ばかりに行くのだと。金持ちにも分けてあげなさいと。まあそういう事もあるわけですね。だから全てお釈迦様は回って行きなさいと。

これはいっぱいあるから、5 番までにしておくかな。一日にね、一回だけ食べなさいと。それも昼前に食べて。それ以外は絶対食べてはいけませんと。ただし病気の時は別ですと。やっぱりお釈迦様は優しいわけですよ。ちょっと。ところがデーヴァダッタの場合は絶対ダメと、死になさいって。ああそれは素晴らしいと死んで、それ。人間はそういう事がカッコいいわけです。もう桜散る花の下で切腹して何とかって。それは良いけれど、特攻隊で死んで行ったのですよ。本人にカッコいいねって言って、その言った人達はこのうのお酒を飲んで遊ぶの。その後財閥になって良い思いをしています。

まあそういう事で結局、あんまりね、そういう風なカッコいい敵に攻めて行ってコロッと死ぬけれど、おー、やれやれってとこう手を叩いている人は良い見世物で、上手く行けば自分ももっと良いものを貰えるからね。だから、その手に乗っちゃダメですよ。人の命は大切です。こういう法を得る事がもっと大切だと。そういう風な特攻隊みたいに朝から晩まで働いて体を壊して、自殺するよりはそんな事を止めて、農業でも手伝いながら少しの実で良いから、宮沢賢治さんみたいに、それが正解だと思います。そこまでしなくても良いけれども。



質疑応答

ナーガ・竜

【参加者】

先程、未来仏は竜の木の下で成道されると、弥勒菩薩様ですね、仰いますけれども。仏教には竜と言うのが良く出て来る、ナーガですかね、竜王ですとか出て来るのですが、我々は見た事は無いわけですよね。

【水源師】

ミャンマーに行けば、見なかったの？お釈迦様がね、ミャンマーに二回来られたのですよ。スリランカは三回。バンコクは一回。それだけ重要視して、バガンの近くにお釈迦様が来て、竜みたいな人間がいるわけですよ。肌が蛇みたいなあれで、顔もごつくて。蛇みたいな顔。その人は、地下に住んでいてね。人間より非常に優れた生命体で、出て来てお釈迦様来たと言って喜んで、帰った時にその寝台を持って地下の帝国に行ったわけす。

それでウ・レワタバンテが、君こっちにはナーガがちゃんといふのだよ。ナーガの国もあって住んでいるのだよって。私がバガンに行って、これなあーにって言ったら、やっぱりナーガ族。その事だと思う。名前も違うけれどね。ミャンマーに行ったら、何か悪魔ではないけど蛇族みたいなごつい顔をした青い肌をした門番が必ず二人いるでしょう？見なかった？

【参加者】

それは像としてあると言う事ですか？

【水源師】

像ではなく本当にいるみたい。

【参加者】

生きた？

【水源師】

そう。だから私の先生のウ・レワタバンテが、いるんだよってちゃんと言っていました。見ているわけです。ただね、普通の人が見ようと思ったって、天女見たことある？

【参加者】

いいえ。

【水源師】

あるよ。結局力があれば見えるくらいでさ。

【参加者】

そういう次元が違うという生命体と言う事ですか？

【水源師】

宇宙にいっぱいあるって。何回も言っているでしょう。ただ森の中に入って行って初めてあるというくらいであって。普通、私達は動物園にいる生命体しか見た事がないでしょう。でも学者さん方はいっぱい色んなものを見ているはずだし。だから結局それだけ見たかったらちゃんと修行しなさいと。見えるから。だって、見せてくれって何のために？それで何をするのって。見て何をしますかって、その生命体の体を見てどうしますかと。幽霊見たことあります？

【参加者】

無いですね。

体験して初めてアビダンマを応用し解説でき、人を救うことが出来る

【水源師】

私はありますよ。それは恐ろしいものだ、スタスタ歩いて。足が無い。そういう幽霊を見た場合はね、普通の人には心臓が止まるのですよ。恐ろしい事になる。だから私はそれを何回も見たものだから、もう夜、家の外へ歩く事が出来なくてね、だから宇宙人も見ないから、ないのでしょ。

ところが、1954年、アイゼンハワー大統領が、ダルスというエアフォース基地で2千人の人の前で、グレーとノーディック、二つ宇宙生命体が出て来て、グレーが米国とサインした。コントラクト(契約)。それで米国はスーパーサイエンスを持っているわけです。その人達は見ているわけです。エリア51にちゃんとあるわけですよ。でも、エリア51に私達は行ける？行けない。行ったら、24時間体制で全部警護されて、来たら銃殺するから。まあそういう事です。でも、今はもう公表されて、文章も文献も出て古文書が出て、50年なったら開放するから。ちゃんと書いている大統領も会って、会議をしたと。宇宙人と。私達は見えていないよ。でもアメリカ政府が言っているわけです。またさっき言った様に、こういう書類もアメリカ政府から出ているという文書を見なければ、信用しないでしょう？

実際に、私はアルミニウムホイールをここに当ててコンピューターをやるから楽なわけです。それまで、何故それをやったかと言ったら、ハダヤ(hadaya:心)がここにあってね、ワイヤレスコミュニケーションって言ったでしょう？ここではなくここだよ。この事。ちゃんと知っている。これが本当の仏教。という風に人を助けなければいけない。普通の人には馬鹿にされるから言わないでほっておくでしょう。自分に関係ないと。言ったら馬鹿にされると。ところが私は馬鹿だからね、こういう風に発表するわけです。これによって、沢山の人が病から心臓、アトピーとか色んな癌とか、訳の分からない病気から救われるチャンスがあるわけです。

だからここでアビダンマが非常に大切になってくるわけです。体験したことによってそれを

応用して、こういう文献があつて、1974 年からこんな事をしているわけですよ。テロリストと言う事は、2001 年 911 からテロリストって言ったけど、テロリスト対策が 1974 年ですよ。だから 2500 年前の仏教のこの話になったら、何でもありになってしまう。もし修行をしなかったら。幸い南伝のパーリ語で訳された熱心に守ってくれたお坊さん方、または中国の方を回って教えてくれた北伝のお坊さん方、それを二つ照らし合わせて私が北伝の修行と南伝二つをやっているから話がピタッと合うわけです。こう言う風に 1200 年前の弘法大師様が言われた事をペラペラペラペラッと解説できるわけ。でなければ、何が何だか分からないですよ。体験しているから何を言わんとしているかすぐ分かるわけです。こう言う風に印を付けて、大事な所ですね。

一番大切な事は、やっぱりここに言われている事は、あなたが一円相って言ったでしょう。これ書いてある。これちゃんと書いてある、これ。それにまず近づきなさいと。大安心。良かったですね。私も知らなかった。ここにちゃんと書いてあります。



水源禪師法話集 83
(2018 年 4 月 27 日 山梨合宿 1 日目)

2019 年 2 月 14 日 発行

編集兼発行 一乗禅の会